

儀式を摩尼宝珠によってできると思ったのです。摩尼宝珠付板石は合祀スペースまで貫通していい、そこからお骨を入れられるようにしました」と高橋さん。

お墓の新しい形の二つ 意義ある供養塔を

また、高橋さんは、「本来、中世の庶民はその日の食べ物にも事欠く状態であり、家々でお墓を造

塔するような余裕もなかったと思います。それでも村人たちはご先祖様のためにと一紙半銭を持ち寄りようやく村全体のお墓を造立していたと思います。これが本来の供養塔ではないでしょうか？決して利便性から生まれたものではありません。作り手も施主も今一度、本来の供養塔の在り方を考えてほしいと思います」と語る。

世伝石塔シリーズ 第四弾完成!

『三重宝篋印塔』

仏教の教義、日本人の死生観・他界観を踏まえた上で死者救済のお墓を作りたいという想いが、『世伝石塔シリーズ』にはある。そんな想いから高橋さんには昨年から東日本大震災の被災地に向けて造塔させていただきたい、という気持ちがあった。それは、したいではなく、させていたいただきたい、という想いだ。その想いで制作されたのが、つい先頃完成した世伝石塔シリーズ第四弾『三重宝篋印塔』だ。

工も参加。もちろん全て手加工で、作品には一ノミノミ石工の魂が込められて作られていることが伝わる出来映え。是非皆さんにも見ていただきたい作品である。

第一弾から取材の機会があり、今回思ったことは、高橋さんが常に言っていた、「一つ一つの意匠の意味を理解して制作してほしい」ということ。まさに今、チーム高橋とも言える石工たちは、そういう仕事を形にしている。それを裏付けるかの

被災地への想い

庵治の石工も同じ想いで、理解をして制作したい、今回は若手の石

ように高橋さんは、「こんな私についてきてくれ

る石工さんたちのおかげで、今ならどんな仕事、想いにも応えられる。さらに空間からプロデュースする仕事ができるようになった。本当に感謝です」と語る。

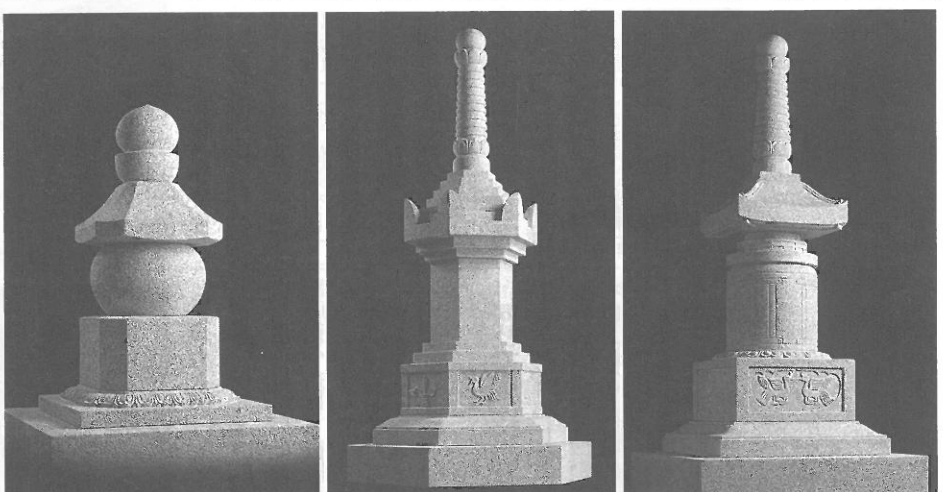
難しい理屈はいらない 「世伝石塔シリーズ」

「宝篋印塔」「宝塔」「五輪塔」は説明が難しい、どう売ればいいのかわからない、と考える読者の方も少なくないだろう。「各塔のポイントと仏教の教義、日本人の死生観・他界観を理解すればそれほど難しいものではない」というのが、高橋さん。形も一般の人にしてみれば見たことのないものが多く、そういう意味では新しいデザインであつても受け止めやすいだろう。それぞれの意味をきちんと説明できれば、納得してもらうことは意外に難しいものではなく、今のところではないだろうか。

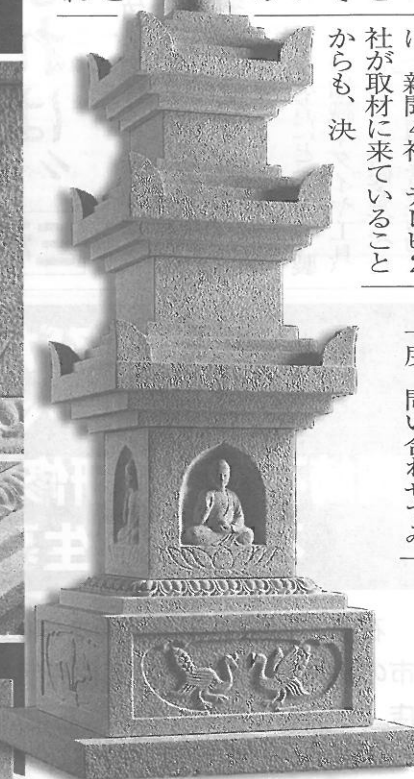
現に今回の第四弾には、新聞4社、テレビ2社が取材に来ていることから、決

てはいかがだろう。**【有翼石材】**香川県高松市庵治町63-90144

TEL 087-087-3288 FAX 〃 3287



第一弾「宝塔」 第二弾「六角宝篋印塔」 第三弾「大面取五輪塔」



第四弾「三重宝篋印塔」

